

(参考様式5改定)

平成22年度 元気な地域づくり計画目標達成状況報告書

都道府県名	市町村名	地区名	計画期間	事業実施期間
大分県	竹田市	竹田地区	平成17年度～平成21年度	平成17年度

1、施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容

- ① 地区名 : 城原地区
- ② 対策名 : GT、都市農業振興
- ③ 事業実施期間 : 平成17年度
- ④ 事業メニュー : 地域連携システム
- ⑤ 実施予定内容 : GT関連行事
- ⑥ 事業実施主体 : 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

H17:カボス収穫体験(1回:43名) 役員・打合せ会議(3回)

H18:役員回(1回)

H19:カボス収穫体験(1回:25名) 役員会・打合せ会議(3回)

H20:交流メニュー、受入体制の見直し

H21:交流メニュー、受入体制の見直し

ウ 施策の効果

祭りの日にカボスの収穫体験をし、夜に地域の伝統芸能である夜神楽を観覧してもらうメニューで交流を行ってきたが①非宿泊型交流としては時間が長い。②夜神楽で御神酒をふるまうためバスの借り上げを行っており、一定の応募者が無いと協議会に金銭的な負担が生じる。主にこの2点から交流メニューの見直しが必要となった。

郷土の伝統芸能に触れてもらうことで地域の人との交流も行われ、参加者、地域の人々共に好評だった。継続可能な交流を模索しておりH20・H21と農家民泊開業のための説明会に出席するなどし、時間的な問題・予算的問題の解決のため農家民泊の開業も視野に入れながら交流メニューの見直しをしている。

※ 施策内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

※ このため、同一計画地区で複数のソフト事業が行われた場合にはア～ウまでを追加して記載すること。

1、施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容

- ① 地区名 : 神原地区
- ② 対策名 : GT、都市農業振興
- ③ 事業実施期間 : 平成17年度
- ④ 事業メニュー : 地域連携システム
- ⑤ 実施予定内容 : GT関連行事
- ⑥ 事業実施主体 : 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

H17:秋の交流(1回:8名) 竹炭加工体験等(159名) 役員会・打合せ会議(2回)

H18:秋の交流(1回:15名) 竹炭加工体験等(238名) 役員会・打合せ会議(2回)

H19:秋の交流(1回:11名) 竹炭加工体験等(180名) 役員会・打合せ会議(2回)

H20:森林環境税行事(1回:5名) 竹炭加工体験等(179名) 役員会・打合せ会議(2回)

H21:竹炭加工体験等(351名) 役員会・打合せ会議(2回)

ウ 施策の効果

地元の協議会が中心となり、農業体験等を通じ里山の良さを都市住民に対し積極的にPRしていこうという姿勢がみられた。

20年度は実行委員が中心となって里山コンサートを開催した。

21年度は課外授業に来ていた県外の中学生に地元の交流拠点施設で郷土料理を振る舞ったり、竹炭加工体験を経験して貰うなどし交流を行った。

今後も継続的な取り組みが期待できる。

※ 施策内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

※ このため、同一計画地区で複数のソフト事業が行われた場合にはア～ウまでを追加して記載すること。

1、施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容

- ① 地区名 : 入田地区
- ② 対策名 : GT、都市農業振興
- ③ 事業実施期間 : 平成17年度
- ④ 事業メニュー : 地域連携システム
- ⑤ 実施予定内容 : GT関連行事
- ⑥ 事業実施主体 : 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

H17:夏の交流(1回:40名) いも掘り体験(1回:58名) 役員会(1回) 総会(1回)

H18:夏の交流(1回:39名) 野菜の植え付け(1回) 総会(1回)

H19:夏の交流(1回:23名) 名水米田植え体験(1回:28名) 名水米収穫祭(1回:38名) 野菜の植え付け(1回:10名) 総会(1回)

H20:夏の交流(1回:25名) 名水米田植え体験(1回:24名) 名水米収穫体験(1回:41名) 野菜の植え付け(1回:18名) 総会(1回)

H21:夏の交流(1回:35回) 名水田植え体験(1回:21名) 名水米収穫体験(1回:41名) 野菜の植え付け(1回:10名) 総会(1回)

ウ 施策の効果

地元の管理組合全体で都市住民との交流を積極的にやりたい、受け入れたいという姿勢が見られた。
少しでも交流人口を増やそうと体験メニューの開発にも意欲的である。
過去の参加者に対して、手紙にて案内を送るなど努力しているため、リピーターが多い。
今後も継続的な取り組みが期待される。

※ 施策内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

※ このため、同一計画地区で複数のソフト事業が行われた場合にはア～ウまでを追加して記載すること。

1、施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容

- ① 地区名 : 九重野地区
- ② 対策名 : GT、都市農業振興
- ③ 事業実施期間 : 平成17年度
- ④ 事業メニュー : 地域連携システム
- ⑤ 実施予定内容 : GT関連行事
- ⑥ 事業実施主体 : 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

H17: 古代米田植え体験(1回:17名) 古代米稲刈り体験(1回:23名) 役員会・打合せ会議(6回)

H18: 古代米田植え体験(1回:11名) 古代米稲刈り体験(1回:10名) 役員会・打合せ会議(6回)

H19: 古代米田植え体験(1回:50名) 古代米稲刈り体験(1回:8名) 役員会・打合せ会議(6回)

H20: 古代米田植え体験(1回:32名) 古代米稲刈り体験(1回:20名) 役員会・打合せ会議(6回)

H21: 古代米田植え体験(1回:31名) 役員会・打合せ会議(6回)

ウ 施策の効果

地元の協議会が主となり、農業体験をとおり積極的に都市住民と交流したいという姿勢がみられた。
19年度から始まったAPUの学生との国際交流も継続して行われている。
21年度は雨天のため古代米稲刈り体験が中止されたが、今後も継続的な取り組みが期待される。

※ 施策内容ごと、事業実施主体ごとに記載すること。

※ このため、同一計画地区で複数のソフト事業が行われた場合にはア～ウまでを追加して記載すること。

(1) ソフト

ア 施策の内容：

- ① 地区名： 太田地区
- ② 対策名： 農地基盤
- ③ 事業実施期間： 平成17年度
- ④ 事業メニュー： 土地利用調整支援
- ⑤ 実施予定内容： 土地利用調整活動（農家意向調査延べ5日、農地集団化調整延べ5日、農地流動化調整延べ5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ5日、生産組織育成強化延べ5日、農業機械利用再編延べ3日）
- ⑥ 事業実施主体： 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

土地利用調整活動（農家意向調査延べ 5日、農地集団化調整延べ 5日、農地流動化調整延べ 5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ 6日、生産組織育成強化延べ 5日、農業機械利用再編延べ 3日）
平成21年度までの集積率 33.57%

ウ 施策の効果

(コメント)

平成16年4月に経営体育成土地利用調整推進協議会を設立し、毎年協議会の開催、先進地視察研修の実施を行ってきた。それにより地域住民の集落営農に対する認識と意欲が高まっている。今後更に地元協議を重ねて担い手への集積を実施していきたい。

1 施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容：

- ① 地区名： 岡本地区
- ② 対策名： 農地基盤
- ③ 事業実施期間： 平成17年度
- ④ 事業メニュー： 土地利用調整支援
- ⑤ 実施予定内容： 土地利用調整活動（農家意向調査延べ 4日、農地集団化調整延べ 3日、農地流動化調整延べ 5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ4日、生産組織育成強化延べ4日、農業機械利用再編延べ3日）
- ⑥ 事業実施主体： 竹田市

イ 施策の実績

（コメント）

土地利用調整活動（農家意向調査延べ 5日、農地集団化調整延べ 4.5日、農地流動化調整延べ 5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ 5.5日、生産組織育成強化延べ 5日、農業機械利用再編延べ 3.5日）
平成21年度までの集積率 30.14%

ウ 施策の効果

（コメント）

平成
16年4月に経営体育成土地利用調整推進協議会を設立し、毎年協議会の開催、先進地視察研修の実施を行ってきた。それにより地域住民の集落営農に対する認識と意欲が高まり、平成22年3月17日に基幹3作業の受託を中心とする農事組合法人「トキの夢営農組合」設立し、担い手型土地集約から担い手を中心とする集落営農型土地集約へと変化しつつある。

1 施策ごとの評価

(1) ソフト

ア 施策の内容：

- ① 地区名： 下坂田地区
- ② 対策名： 農地基盤
- ③ 事業実施期間： 平成17年度
- ④ 事業メニュー： 土地利用調整支援
- ⑤ 実施予定内容： 土地利用調整活動（農家意向調査延べ 4日、農地集団化調整延べ 3日、農地流動化調整延べ 5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ4日、生産組織育成強化延べ4日、農業機械利用再編延べ3日）
- ⑥ 事業実施主体： 竹田市

イ 施策の実績

(コメント)

土地利用調整活動（農家意向調査延べ 4日、農地集団化調整延べ 4日、農地流動化調整延べ 5日）
土地利用推進活動（事業推進検討会延べ 5日、生産組織育成強化延べ 4日、農業機械利用再編延べ 3日）
平成21年度までの集積率 37.35%

ウ 施策の効果

(コメント)

平成
16年4月に経営体育成土地利用調整推進協議会を設立し、毎年協議会の開催、先進地視察研修の実施を行ってきた。それにより地域住民の集落営農に対する認識と意欲が高まっている。今後更に地元協議を重ねて担い手への集積を実施していきたい。

ウ 施策の効果

(コメント)

地形図作成後2年以内に耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業により事業を着手することができた。それにより耕作放棄地の発生防止と解消を推進し、経営体育成の活動を容易にすることにより、農地の流動化推進とともに、農作業の受委託及び機械の共同利用化を図ることができる。

ウ 施策の効果

(コメント)

本地域は経営の零細化、高齢化が進むほか、用水路の老朽化による漏水が発生しているため農地の荒廃化が危惧されていた。本施策により漏水が解消され、安定した用水の供給ができ、漏水箇所の補修等の維持管理の労力が軽減されることにより計画とおり目標が達成できた。

ウ 施策の効果

(コメント)

地域は経営の零細化、高齢化が進むほか、用水路の老朽化による漏水が発生しているため農地の荒廃化が危惧されていた。本施策により漏水が解消され、安定した用水の供給ができ、漏水箇所の補修等の維持管理の労力が軽減されることにより計画とおり目標が達成できた。

本

ウ 施策の効果

(コメント)

地域は経営の零細化、高齢化が進むほか、用水路の老朽化による漏水が発生しているため農地の荒廃化が危惧されていた。本施策により漏水が解消され、安定した用水の供給ができ、漏水箇所の補修等の維持管理の労力が軽減されることにより計画とおり目標が達成できた。

本

ウ 施策の効果

(コメント)

本地域は経営の零細化、高齢化が進むほか、用水路の老朽化による漏水が発生しているため農地の荒廃化が危惧されていた。本施策により漏水が解消され、安定した用水の供給ができ、漏水箇所の補修等の維持管理の労力が軽減されることにより計画とおり目標が達成できた。

3 目標達成状況に関する評価

(コメント)

事業は計画どおり終了しており、効果も発揮し目標は達成されている。経営体育成による担い手への集積等については順調に進捗しており、集落営農法人の設立等目標を上回る結果が達成できた。G Tや、都市農業振興対策については地元の協議会が主体性を持ち積極的に非常に高い伸び率を示している。基盤整備（用水路改修）について計画とおりに達成しており全てのテーマで目標達成がなされている。

4 総合評価

(コメント)

全ての事業について目標が達成されており、計画的な予算執行と事業実施が行われている。基盤整備対策については安定した用水供給が図られ維持管理労力の軽減等により、農作業の安定した生産活動の強化が図られている。経営体育成による担い手への集積等については、地域住民の意識・意欲が研修を重ねたことにより高まり、農事組合法人「トキの夢営農組合」の設立等に見られるように集落営農を推進し低コスト化等に取り組む姿勢ができてきている。G Tや、都市農業振興対策については本事業により都市住民の受け入れシステムの構築が図られてきたことで今後交流人口の増加により地域の活性化や農林業の振興を総合的に推進していきたい。

(都道府県の意見)

別紙に記載